

保育を振り返る

10月14日(水)、清水幼稚園で保育の研究会が行われました。昨年度から2年間にわたり、福島市教育委員会から委託を受け、「保育の質の向上」に取り組んできました。その2年目の様子を、市内の幼稚園、認定こども園、保育所などの先生方に参観して頂き、ご意見をいただきました。保育参観の人数は、各学級20名以内に制限させていただきましたが、全体会は教育委員会の先生方、市役所の幼稚園保育課の皆さんなどを含めると、約80名の参加者となりました。



子どもの教育にあたる教師にとって、研修をすることは「仕事」の一部でもあり、「責任」でもあると考えています。コロナ禍の中にあって、このような研究会を行うことができたのも、保護者のみなさまのご理解とご支援があったからと思っています。前日の会場設営から、当日の車の誘導まで大変お世話になりました。心から感謝しております。

研究会に参加された先生方から感想をいただきましたので、紹介します。

- コロナ禍の中での研究は、大変だったかと思います。子どもたち一人一人が笑顔で遊んでいる姿がとても印象的でした。
- 知らない先生にも、「こんにちは」と元気に話す子どもたちが、とてもかわいらしかったです。
- 普段からあたたかい雰囲気の中で園生活を送っているので、幼児たちものびのびと自信をもって遊びに取り組んだり、友だちと関わったりしているんだなと感心させられました。
- それぞれの幼児がやりたいことを見つけて、友達と一緒に遊ぼうとしている姿がとても印象的でした。どの遊びにも先生方が丁寧にかかわり、幼児が安心して遊びに向かっていると感じました。
- 子どもたち自身が、自ら「できることを自分でする」という意識が感じられました。教師も見守り、必要な時のみ援助していました。
- たくさんの人が見学している中、子どもたちが戸惑いもなく集中して遊べていました。遊びを十分楽しめたことがスムーズな片付けにつながっていると思いました。

今回の研究会で、清水幼稚園の保育をオープンにし、他の先生の目を通して振り返ることができて、本当によかったと思っています。ありがとうございました。